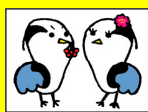


～学びと育ちの連続性～

## 浦幌小中一貫CS便り



平成 26 年 9 月 19 日 (NO.28)

浦幌町教育委員会

浦幌町教育研究所

## 全国コミュニティ・スクール 研究大会 in 下関

午後の部の最初は、実践発表でした。

三つの地域から、それぞれの取組、成果と課題が発表されました。地域の特色や既存の組織・事業を活かしながら、工夫をされています。

# 実践発表編 PART 1

共通テーマ：「 地域の力を学校へ 学校の力を地域へ  
～地域とともにある学校～」

実践発表 1：奈良県奈良市立三笠中学校

【学校運営協議会 行動指針について】

「子どもたちが抱える課題を『地域ぐるみで解説する仕組み』

そのために→ (1) 地 域は…「地域の力を学校運営に生かし、共に育ちます。」

(2) 家 庭は…「教育の原点に立ち返り、学校と連携します。」

(3) 教職員は…「自らを高め、生徒に向き合います。」

【学校運営協議会 運営組織について】

4 部構成で組織。

(1) 管理部～学校関係者評価。学校運営の助言。情報発信。(地域・PTA・学校関係者)

(2) 地域連携部～地域と子どもが共に育つ環境づくり。郷土愛、地域貢献力(地域教育協議会)

(3) 育ち支援部～子どもの健全育成を推進。登下校指導、相談活動等(少年指導協議会)

(4) 学び支援部～授業と部活動の支援。キャリア教育等(放課後子ども教室・放課後学習)

【成 果】

◎地域・保護者が学校を支え、特色ある教育活動の充実・活性化が図られた。

◎地域・保護者の意見・要望を学校運営に反映し、地域に開かれた信頼される学校へ。

◎中学校CSを基盤とした小中一貫教育の推進が図られ…

①きめ細かな指導と専門性の相互交流により、「学力向上」につながった。

②長期にわたる生徒理解が図られ、「生徒指導上の成果」につながった。

③教職員の指導力の向上が高まり、「学校運営の活性化」につながった。

【課 題】

◎地域住民参加や協働の必要性の浸透

①校長・教頭会 ②地区担任制 ③地域交流研修会の企画 ④各校へのCS説明会 等

理解を得るための積極的な活動を行っていく。あわせて、教職員のCSに対する考えは、地域理解と協力を基盤に必要性を浸透させていく。

◎将来的に運営協議会の担い手の発掘・育成・拡大

◎ファンド事業の運営調査研究

◎地域・保護者・教職員の当事者意識を育む、コーディネーターの役割